

## 全体計画

### 1. 本校の実態

#### (1) 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果より

- ① 今年度の結果からは、国語と算数に特に課題が見られる。問題を解く上での、文章読解力に課題がみられる。
- ② 下位層が多く、学力の底上げが必要である。
- ③ 国語や算数に比べると、社会及び理科は、都との差が少ない。
- ④ 過去の結果と比較すると、年度による差が激しく、今年の結果をもって、全校での傾向と考えることはできない。

#### (2) 日々の学習評価などから

- ① 今年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の対象学年の算数における昨年度からの評価記録からは、基礎的な学習内容の定着の割合は向上がみられる。
- ② 全体として、個人差が著しく、集中して学習することが難しい児童や、学習内容の定着に時間がかかる児童が多い。
- ③ 家庭学習の充実に取り組んでいるが、まだ、十分とは言い難い。

### 2. 指導方法について

#### (1) 指導体制について

- ① 算数少人数指導については、1年と3年が、2学級3展開、2年が3学級4展開、4年生以上が、2学級4展開で行っている。また、少人数指導の学級編成は、課題別で編成している。
- ② 本校で初任を迎えた教諭が多く、情熱をもって指導に当たっているが、経験が少なく、学年や隣接学年などでの協力体制の充実を図っている。

#### (2) 指導方法の改善

- ① 教員一人一人の指導力の向上を図るために、全ての教員が研究授業を実施する。
- ② 日ごろから、互いの授業を見合い、研鑽に努める。

### 3. 児童の課題より

- (1) 一人一人のもつ課題に、大きな開きがあるので、個に応じた指導の充実を図る。
- (2) 学習規律がまだ十分定着していないので、ふっさっこっ子スタンダードを活用して、学習規律の定着を図る。

### 4. 授業改善の方針

授業改善推進プラン作成にあたり、以上の実態から

- ① ふっさっこっ子スタンダードに基づいて授業を実施。
- ② 「ねらい」「まとめ」を板書し、授業の流れを示す。
- ③ 既習事項の活用と考えさせる指導をする。

の三点について、全校共通の視点とし、それぞれの教諭が実態を踏まえ、実現可能な改善内容を各教科毎に設定し、学期末に評価をする。